

***箴言の格言のように**

多くの人は、自分の道は自分で定める、自分自身で決めなければならない、と思い込んでいる。しかし、いろいろなことを計画しても、そのように事は運ばないことは、歳を重ねる毎に分かるようになる。自分で、自分の道を悟ることができない。人の道は主によって定められるのだ。私を根本的に創り出した主なる神様が、私の人生を定めておられる。今回は、そのことをヨセフの半生を通して学んでみたい。

***父ヤコブとその息子ヨセフ**

ヤコブは、かつて、祈りの格闘に勝利して、イスラエルという輝かしい名前を頂いた。ヤコブには12人の息子がいて、ヨセフはその11番目、最愛の妻ラケルとの間に産まれた。父ヤコブは、年寄り子のヨセフを特別にかわいがるが、不思議な夢を見たことを話すヨセフは、兄たちの恨みをかってしまう。

兄たちが遠くへ羊を追っていたとき、父はそこへヨセフを使いに出した。兄たちは、まだ遠くにいるヨセフを見つけて、彼を殺害しようとするが、最年長の兄が止めに入る。それで、ヨセフは水を貯めるために掘られた空の穴に投げ込まれてしまう。何という突然の悲劇であろうか。しかも兄たちはヨセフを殺すより売り飛ばすことに計画を変更して、エジプトに下る商隊に銀貨20枚でヨセフを売ってしまった。

さらに、兄たちは父ヤコブに、ヨセフが獣に襲われて死んでしまったと、信じ込ませる。ヤコブは深い深い悲しみに明け暮れたことであろう。しかし、この困難は、神のイスラエル民族に対する壮大な計画の内であった。

***教訓と慰め**

第一に、人生は不可解である。まさに、人は自分の道を悟ることができない。

人は、いろいろなことを考え、予想するが、思うように行かないのだ。ヤコブ(イスラエル)やヨセフの姿を見る時に、私たちは、慰めと励ましを受ける。私が受けている苦難は、私だけの孤独な経験ではないのだ。すでに多くの信仰者たちが体験し、通り抜けて来た道なのである。

第二に、苦難は人を傷つけるが、主なる神様に向かわせるものなのである。ヨセフが、主の導きを受けるようになったのは、穴の中で主なる神様に叫び求めることを覚えたからではないだろうか。これまで頼りにしていた父親と別れ、兄たちの仕打ちに人間の限界と悪魔性を思い知らされたことだろう。暗い穴の底こそ、主なる神様と出会う場所だったのだ。私たちの人生も、決していつも順風満帆ではない。人生は思うように行かず、時には暗い穴底に落ち込んだ経験もある。しかし、それによって、主なる神様を見上げることができたとするなら、なんと素晴らしいことではないだろうか。